

都道府県番号 4 4	学校名 大分県立爽風館高等学校	課程 定時制	学科 普通科	指定期間 H29
---------------	--------------------	-----------	-----------	-------------

## 平成 29 年度 高等学校における特別支援教育推進のための拠点校事業 実施報告書（成果報告書）（要約）

### 1 研究開発課題

「中学校、特別支援学校及び周囲の高等学校等と連携した、通級による指導の指導内容、指導方法の研究」

### 2 研究の概要

平成 30 年度から高等学校で通級による指導が導入されることに伴い、課題となる以下の 2 点について、研究開発を行う。

- ・ 中学校、特別支援学校及び外部の専門機関と連携した、指導内容や指導方法の研究
- ・ 周囲の高等学校と連携した、通級による指導の拠点校としての体制整備

### 3 研究の目的と仮説等

#### (1) 研究開始時の現状分析と研究の目的

##### ① 現状の分析

本校は、定時制（3 部制）課程と通信制課程を設置する単位制高校であり、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばすという教育目標を掲げている。県内の広い範囲から多様な生徒が通学しており、定時制課程は特別な支援を必要とする生徒の割合が他校に比べて高い（表 1）。そのため、学校設定教科「キャリアデザイン」において、大分大学と連携した学校設定科目「人間関係スキルアップ」講座で自立に向けた教育を行う等、個々の自己有用感を高める取組を積極的に行ってきた。

このような状況のため、平成 30 年度以降は通級による指導を実施する必要性を感じており、その準備を早急に行う必要があると考えている。また、大分市の中心部に位置しており、他校通級や巡回指導を実施する際の拠点となりやすいことも特徴である。

表 1 定時制課程における特別な支援を必要とする生徒の人数と割合  
(人数は本人・保護者の申請分)

全校生徒数(人)	医師の診断がある生徒の人数(人)						全校生徒における割合(%)
	自閉症	情緒	ADHD	病弱	その他	合計	
474	9	3	4	6	45	67	14.1%

##### ② 研究の目的

平成 30 年度以降の通級による指導を円滑に実施するため、中学校や特別支援学校等と連携し、通級による指導の指導内容や指導方法を確立し、本校生の自己有用感を高めることに資する。また、周囲の高等学校と連携し、他校通級や巡回指導における拠点校

の在り方について研究し、県全体の高等学校における通級による指導推進に役立てる。

## (2) 研究仮説

- ・ 中学校、特別支援学校等と連携し、通級による指導の指導内容や指導方法について研究することで、高等学校での個々の障がいに応じた特別の教育課程の開発に役立てることができる。
- ・ 周囲の高等学校と連携し、他校通級や巡回指導について研究することで、地域における「通級による指導」の拠点校としてのモデルを確立することができる。

## (3) 必要となる教育課程の特例

今年度の通級による指導については、教育課程外で実施する。指導時間は、表2のとおりである。

表2 I部・II部の指導時間

部	授業時間	通級による指導時間
I部	8:45～12:00	※下記のいずれかを選択 11:10～12:00
II部	13:00～16:15	14:35～15:25

## (4) 研究成果の評価方法

研究成果の評価方法については、表3に示した5つの取組内容について、作成した成果物について評価を行う。

表3 評価対象の取組と評価の観点

	評価対象の取組	評価の観点
①	校内支援体制の組織図作成	・ 担当教員と分掌が連携した校内支援体制が構築されている
②	対象生徒の決定プロセス作成	・ 生徒、保護者との合意形成を行うプロセスが確立されている
③	特別な教育課程のモデル作成	・ 効果的な自立活動を行う教育課程のモデルが作成されている
④	指導内容・指導方法の事例集作成	・ 中学校、特別支援学校等と連携し、障がいに応じた指導内容・指導方法がまとめられている
⑤	周囲の高等学校との連携モデル作成	・ 周囲の高等学校との情報交換が実施され、通級指導の在り方についての案がまとめられている

## 4 研究の経過等

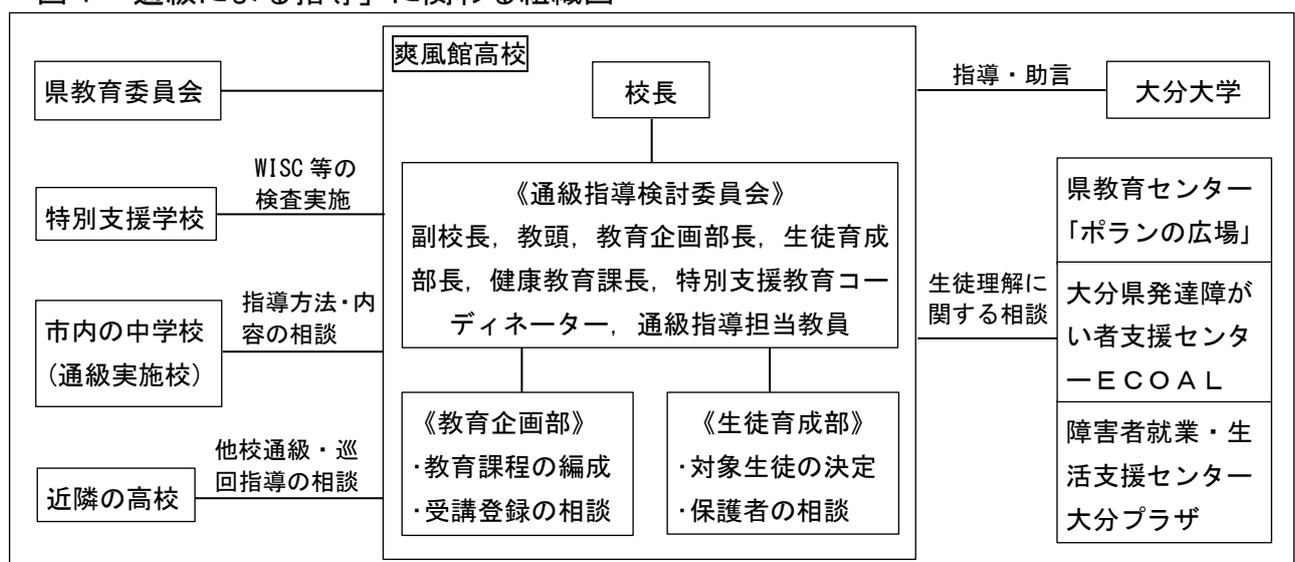
### (1) 取組の内容

1年間で行ってきた取組の内容について、表3で示した項目に従い、表4にまとめた。また、取組に係る関係機関等を図1にまとめた。

表4 1年間の取組内容

	主な取組内容	表3との関係
4月	・通級制度理解（先進校報告書）、今後の計画検討	①
5月	・組織図の作成 ・対象候補生徒の観察（授業でのティームティーチング） ・中学校訪問、教育センター訪問	① ② ②④
6月	・指導内容、教材の検討	④
7月	・第1回職員研修（障がいのある生徒への対応について） ・対象候補生徒・保護者との面談 ・先進校視察（佐世保中央） ・特別支援教育コーディネーター会議	①③④ ② ②③④ ⑤
8月	・対象生徒決定方法の検討、時間割決定方法の検討	②
9月	・後期の自立活動指導計画の検討	③④
10月	・自立活動教材、ワークシートの作成 ・第2回職員研修（通級による指導の内容理解）	④ ①
11月	・授業の実施（11月から2月で計7回の授業実施）	③④
12月	・特別支援学校との連携（WISC-IVによる検査）	②
1月	・先進校視察（西宮香風、太良、愛知） ・特別支援教育コーディネーター会議	②③④ ⑤
2月	・報告書作成 ・次年度の教材準備	
3月	・受講生徒決定、個別の指導計画作成	

図1 「通級による指導」に関わる組織図



これらの取組により、次年度の教育課程を表5のとおり作成した。また、授業計画案についても、表6のとおり作成することができた。

表5 次年度の教育課程

項目	内容
講座名	ライフスキルトレーニング
開設時間	月～金 1～4限のうち8コマ ※生徒は、自分の授業選択科目を重ならない時間を選択
単位数	2単位（週1コマ90分）
開設形態	通年
対象生徒	入学2年目以降の在校生
学習内容	自立活動（コミュニケーション、人間関係の形成、心理的安定）
学習方法	日常生活で想定される場面に応じたロールプレイ等を行い、適切なコミュニケーションの方法を学ぶ
評価	出席状況、授業中の観察、レポートや感想文等の提出内容

表6 平成30年度の授業計画案

	テーマ	内 容
1	オリエンテーション、面談	授業の目標と年間の見通しについて
2	マイデータシート作り 私の歴史と未来①	自分について振り返らせる 自己認知度チェック・面談（個人の目標を確認）
3	私の歴史と未来② 君ならどうする？①	「1年、5年、10年後のなりたい自分」を考えさせる
4	自分の見方を変えよう	自分の短所を長所に置き換える考え方を学ぶ（リフレーミング）
5	いいところ探しをしてみよう	家族や友人の良い所を探すことで自分に関わる人に関心を持ち、よりよい人間関係作りを考える
6	自分の価値感を知ろう	自分の価値感を知ることが、自分自身を知ることにつながる
7	プラス思考でいこう 君ならどうする？②	物事をできるだけ「プラス思考」で捉え、高校生活を前向きに取り組むことができる
8	気持ち当てクイズ	「いいよ」の意味を考える
9	冗談？本気？	言葉の裏に隠れている気持ちを知る
10	「お茶会」を開こう 必要なものを買に行こう	ブレインストーミングで話し合おう 「お茶会」を企画、運営する
11	フレンドシップアドベンチャーゲーム 「お茶会」をしよう	自分らしく友だちとつきあう力を育てる 自分たちで計画した「お茶会」を実行する
12	話を聞くってどういうこと？	話を聞くときのポイントを知ろう
13	わかりやすく話そう パーソナルスペース	会話術 個人の空間・対人距離について
14	「Iメッセージ」で伝えよう 君ならどうする？④	「私は〇〇だと思う」と相手に気持ちを伝えてみよう

15	自分ばかりしゃべらないで	会話術 2
16	話し合いに必要な事は？	自分の意見を相手にどう伝えたらいいのかまた、周りの意見を聞くときのポイントについて
17	自己紹介をしよう 無人島 SOS	自己紹介 話し合い
18	面談（前期終了時）	個人の目標達成度を確認
19	社会人って？	社会に出るときに必要なことを考えよう （求められる人物像、身だしなみ、挨拶）
20	職場のルールとマナー	職場のルール（規則）とマナー（思いやり）とは何かを考えよう
21	職業調べ	図書館で自分の就きたい職業を調べる
22	正確に伝えるための 6W3H	会話術(昨日の出来事を友だちに話してみよう)
23	クッション言葉 君ならどうする？①	会話術 上手に話しかけるには
24	相手の立場で考えてみよう	相手の立場になって考えてみよう
25	フレンドシップアドベンチャーゲーム 君ならどうする？②	自分らしく友だちとつきあう力を育てる
26	問題を解決するためのポイント	友だちとトラブルを起こさないための 5つのポイントについて学ぶ
27	妥協するって？	お互いの気持ちを大切にしながら問題を解決する
28	「怒り」とのつきあい方	自分のイライラ解消法を見つけよう
29	これって悪いこと？	物事を適切に判断できる力を身につけよう
30	「NO!」と言える人になろう	嫌なことを強要された時の適切な断り方を考える
31	動物マンション 君ならどうする？③	協力してクイズを解いていく
32	宝島を脱出せよ！	協力してクイズを解いていく
33	あなたはフリーターになる？	マイクテハートを活用して身近な話題を考える
34	あなたは賛成？反対？	マイクテハートを活用して身近な話題を考える
35	面談（後期終了時）	個人の目標達成度を確認

## （２）取組に関する自己評価

研究の自己評価については表 7 にまとめた。①～④については、概ね満足いく成果をあげることができたが、⑤については、当初考えていた協議内容まで到達しなかった。理由としては、まだ自校通級も始まっていない時期であるため、他校通級や巡回指導の

イメージを共有することができなかったことが大きい。そのため、周辺の学校との連携については、次年度の本校における自校通級の様子を周辺校の特別支援教育コーディネーターに参観してもらいながら、各校における導入の可否等について、引き続き協議を進めていきたい。

**表7 取組に関する自己評価**

評価対象の取組		評価の観点	自己評価
①	校内支援体制の組織図作成	・担当教員と分掌が連携した校内支援体制が構築されている。	・校内支援体制だけでなく、校外との連携もふまえた組織図を作成できた。
②	対象生徒の決定プロセス作成	・生徒、保護者との合意形成を行うプロセスが確立されている。	・対象生徒の決定プロセスが完成し、実際に活動することができた。
③	特別な教育課程のモデル作成	・効果的な自立活動を行う教育課程のモデルが作成されている。	・教育課程のモデルを作成し、生徒への説明を行った。
④	指導内容・指導方法の事例集作成	・中学校、特別支援学校等と連携し、障がいに応じた指導内容・指導方法がまとめられている。	・後期に7時間の授業実施ができ、次年度の指導内容案も作成できた。
⑤	周囲の高等学校との連携モデル作成	・周囲の高等学校との情報交換が実施され、通級指導の在り方についての案がまとめられている。	・協議の場をもち、情報交換はできたが、具体的な連携モデル作成までは至らなかった。

## 5 研究開発の成果

### (1) 実施による効果

#### ①対象生徒への効果

今年度は、後期に7時間の「通級による指導」授業を実施した。対象生徒は6名で、火曜日、金曜日に3名ずつ指導を行った。合計7回の授業を通して、生徒には毎時間の振り返りシート記入と、全活動終了後のアンケート記入をしてもらった。毎時間の振り返りシートでは、回を重ねるごとに緊張や不安の声が減り、授業を楽しみにしている声が増えるなど、変化を感じることができた。また、アンケートにおいては、全員が「次年度も受講したい」と回答しており、生徒にとって役立つ内容であったことがうかがえた。特に感想からは、「他人と会話することに、少し自信がついた」や「相手の話をよく聞くようになった」等、コミュニケーションに自信のなかった生徒たちが、授業によって自信を得ていることが伝わってきた。

#### ②教員への効果

本研究の一環として、2回の教員研修を行うことで、教員全体への「障がいのある生徒への指導」に対する理解が深まった。第1回は6月に、特別支援学校の元校長である雫石弘文氏を迎え「障がいのある生徒への対応について」という講演を行った。特に発達障がいの生徒への対応について、本校で起こり得るケースを事例として挙げながら説明することにより、職員の理解を深めることができた。また、第2回は10月に行い、

指導主事により「通級による指導」についての詳細な説明と、本校での運営方法についての協議を行った。全職員が、より指導内容について理解することができ、有意義な機会を得ることができた。

また、後期に行った授業実践においては、7回中3回を公開とし、各回5～10名の職員が参観に訪れ、指導方法や内容についての理解を深めることができた。

## (2) 実施上の問題点と今後の課題

### ①担当者の育成

今年度の研究を通して、「通級による指導」の担当者を1名育成することができた。しかし、チーム・ティーチングの実施や、今後の引継ぎ等を考えると、担当者が2名以上必要となってくる。そのため、次年度は担当者を2名体制とし、今年度培ったノウハウを共有しながら、チーム・ティーチングが可能な状況を作っていきたい。

### ②他校との連携

今年度実施した2度の協議によって、他校の特別支援教育コーディネーターに対して、「通級による指導」の理解や本校の取組の情報共有を進めることができた。今後は、主に巡回指導の在り方に関して、周辺の高校とどのようにして連携を進めるか、検討していきたい。